

協議会委員等からのご意見

	ご意見	ご意見に対する対応状況
協議会委員からのご意見		
1	<p>(乳幼児期) 乳幼児期における指標 むし歯(う蝕)のない者の割合(3歳児) ①88.5% → 90% ②77.1% → 90%で良いか。</p>	<p>国の基本的事項に定める具体的指標の90%を都においても目標値にしました。</p>
2	<p>(成人期) 図12 CPIコード1以上の者の割合 ← CPI コード3以上ではありませんか。</p>	<p>平成27年度に国が示した「歯周病検診マニュアル」に基づいて記載しています。</p>
3	<p>(高齢期) フレイル → フレイル(虚弱)とするのは、どうか。巻末に用語解説があるが、わかりにくい。</p>	<p>巻末の用語解説に、わかりやすい説明を追加する予定です。</p>
4	<p>(条例の制定) 多くの他道府県のように、東京都民の口腔保健の向上のための条例を設けることも重要であると思います。今後の取組をご検討ください。</p>	<p>都では、歯科口腔保健の推進に関する法律が制定される以前から、「東京都歯科保健目標」(法第13条で定める方針、目標、計画等の基本的事項)を策定し、必要な施策を行っています。また、歯科保健事業の主な実施主体である区市町村は、保健所を有している特別区等はそれぞれの地域特性を踏まえた施策を展開していますが、市町村は都保健所が支援を行いながら取組を行っています。こうした状況の中で、都が統一的な条例を制定することは、難しいと考えています。</p>
区市町村からのご意見		
1	<p>(高齢期) 口腔の健康づくりのため、口腔がんも高齢者で増加しており、口腔がんや口内炎等、口腔粘膜疾患に関する記述を入れた方がよい。口内炎は歯科より内科に行く人が多いというが、口腔粘膜疾患は、歯科という情報発信が必要ではないか。</p>	<p>口腔がんや周術期と歯科の関係等も含めた知識の普及に努めていきます。</p>
2	<p>(全般) 歯だけでなく、口腔ケア、摂食機能等広い範囲になるので「いい歯東京」の表題は代えるべきである。</p>	<p>計画には、口腔ケア、摂食機能を含む歯科保健医療の取組を記載しています。 「いい歯東京」は、歯科保健推進計画の取組を都民に普及啓発する際に、なじみやすいサブタイトルとして、現計画に引き続き活用していきたいと考えています。</p>

	ご意見	ご意見に対する対応状況
パブリックコメント		
1	<p>(幼児期、学齢期) 幼児期、学童期に対する指標の中に「食生活」や「食育」の文言を多く見かけますが、具体的な文言が欠けており、お題目だけの表現になっていると感じます。 平成20年度の厚生労働省の歯科保健課での検討会で「カミング30」を国民運動としていこうとの答申が出ています。東京都が先鞭を切って、「カミング30」を知っている者の割合、実行している者の割合の調査をしてはどうでしょうか。そうすれば、目標値も出てくるでしょうし、都民の認識、歯科関係者の意識も変わっていくのではないのでしょうか。(一部抜粋)</p>	<p>ご指摘の幼児期、学齢期の指標は、国が定めた基本的事項における指標になります。 都では、平成26年度に実施した東京都歯科診療所患者調査において、「よく噛む(一口30回程度)ようにしている者」の割合を調査しています。 今後とも、よく噛むことの大切さを含め、歯と口の健康づくりに関する普及啓発を進めていきます。</p>
2	<p>(学齢期) 口唇閉鎖不全や食教育等、今の子供たちは昔に比べて信じられない程、機能不全の子供が増えているので、日本学校歯科医会では、今年度の目標に口腔機能の健全育成をあげているそうです。都の取組に組み込むことはできませんか。</p>	<p>口腔機能の視点から、特徴、現状と課題、取組の方向性に追記しました。</p>
3	<p>(成人期、高齢期) 医科歯科連携に関する目標として、「糖尿病や禁煙が歯周病のリスクであることを知っている者の割合」とあるが、歯科と全身とのかかわりはそれだけではない。がん治療等をうける患者に周術期口腔機能管理を行うことや薬剤又は放射線治療における顎骨壊死のリスクがある患者に医科歯科連携を行うことが、臨床ですすでにスタンダードになりつつある。またはそれらは、2018年度診療報酬改定においても重要項目に掲げられている。 しかし、計画における成人期及び高齢期における目標には、それらが触れられておらず問題である。都民に必要な歯科医療を提供するためにも、東京はそれらの医科歯科連携についても推進を図るべきである。 ついては、医科歯科連携の目標として、周術期口腔管理の重要性や薬剤又は放射線治療における顎骨壊死のリスクを知っている者の目標を設定すべきである。</p>	<p>周術期口腔機能管理に関する医科歯科連携については、第2章2の医科歯科連携の項で記載しています。 都民に対しても、周術期と歯科の関係について、引き続き普及啓発を行っていきます。</p>
4	<p>(在宅歯科医療) ケマネジャーなどの多職種が歯科受診に繋げるチェックシートの活用が検討されている。一方、資料によれば、ケアマネジャーが口腔を診る頻度は、「あまりない」「ない」が48.3%存在している。半数が、そもそも口腔をほとんど診ていない状況である。 このような状況では、チェックシートを作成しても十分活用されるとは言い難い。活用を図るためにも、ケアマネジャーが口腔を診ることを推進することが必要ではないか。 ついては、都民に必要な医療を提供し、かつ在宅における多職種連携を推進する観点から、目標に利用者の口腔内を診る又は把握するケアマネジャーの割合を設定すべきである。</p>	<p>ケアマネジャーなどの在宅を支える多職種が口腔内の変化に気づくことはとても大切です。まずは、チェックシートを活用し、ケアマネジャーに対する啓発に取り組んでいきます。</p>